

梅干し 祖父の味

新座市立池田小6年

水田 響 12 (新座市)

お正月と言ったら、僕の答えは「祖父の家の梅干し」である。毎年水田家は年末になる、母の実家に帰省し、年越しする。そこで毎年のように、祖父が漬けた梅干しをいただくのが恒例だ。

でも、ただの梅干しではない。なんと、塩が吹き出し結晶化している梅干しなのだ。人によつては気味が悪いと思う人もいるが、酸味が利いていてちょうど良いものになっている。

今でも祖父は元気で、もちろん梅干しも健在である。中学生になると勉強やら部活動やらで、今後祖父の家に行くことも難しくなっていくが、親族の輪は梅干しのように熟成させていきたい。